

2025(令和7)年度 部局マニフェスト

～私たちの組織使命と目標～

部局名	上下水道部
役職	部長
氏名	上窪 英男
連絡先	0595-24-0001



業績目標の標語(指導者評価)

目標としていた達成水準を上回る成果を出した(100%超)
 目標としていた達成水準に到達した(100%)
 わずかに目標の達成水準に達しなかった(90%以上100%未満)
 目標の達成水準には届かなかった(60%以上90%未満)
 目標の達成水準までは遠い結果となった(60%未満)
 目標達成のための取り組みが見られなかった

業績目標	表題	現状や課題	達成水準 (どこまでできれば達成したといえるか)
◎部局目標1 経営基盤の強化と財政マネジメントの向上	関連の施策・基本事業No: — 有収率の向上	<p>〈これまでの経緯〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漏水箇所については早急に修繕を実施している。 ・漏水調査を行いながら老朽配管の布設替を実施している。 <p>〈取り組む目的〉</p> <p>有収率を向上させることで水道水を有効に活用し、経営基盤の強化を図る。</p> <p>〈現状分析〉</p> <p>令和5年度の有収率は80.1%である。</p> <p>〈課題〉</p> <p>老朽管路の更新を進めているが効果的に漏水が減少しない。</p>	<p>〈目標数値〉</p> <p>有収率 82.0%以上を目指す。</p> <p>〈達成された状態〉</p> <p>有収率が向上する事で貴重な水を無駄なく有効に利用し、経営基盤の強化を図る事ができる。令和7年度末で有収率が82.0%以上となる。</p> <p>〈手段〉</p> <p>漏水が多いと推定される配水系統別に南部配水系統、北部配水系統、三田配水系統を重点的に調査を実施する。また、有収率向上委員会を設置し定期的な会議で情報の共有と対策の検討を行う。</p>
◎部局目標2 水道施設の耐震化と計画的な更新で安全でおいしい水の供給	関連の施策・基本事業No: — 水道管路の耐震化	<p>〈これまでの経緯〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時給水拠点を確保するため令和2年度より耐震化工事を実施している。 ・老朽化管路の更新工事を継続して実施している。 <p>〈取り組む目的〉</p> <p>水道管路の耐震化を進めることで、災害時でも安定した水道水の供給を目指す。</p> <p>〈現状分析〉</p> <p>令和6年度末時点で水道管総延長(1,372km)に占める耐震管管路延長の割合が9.9%(135.2km)である。</p> <p>〈課題〉</p> <p>管路の延長が長いため老朽管等の耐震化が進まない。</p>	<p>〈目標数値〉</p> <p>老朽化した水道管の布設替工事により耐震化率10.0%(137.0km)以上を目指す。</p> <p>〈達成された状態〉</p> <p>地震に強い水道管が増えることにより、災害発生時における安心・安定した水道水の供給が行える。令和7年度末で耐震化率を10.0%以上となる。</p> <p>〈手段〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要給水施設配水管の整備として青山中学校工区の管路約600mを施工する。 ・老朽管路の布設替として桐ヶ丘地内他約1,300mを実施する。

達成状況 (自己評価)	理由

◎部局目標3	関連の施策・基本事業No: —	<これまでの経緯>	<目標数値>		
生活環境の向上と公共用水域の水質保全	合併処理浄化槽の推進	<p>○補助金改正 (令和4年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併処理浄化槽設置費用の増額 ・単独処理浄化槽撤去及び配管工事費の新設 ・合併処理浄化槽設置促進のための転換加算金を新設 <p>(R4～R8、20万円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地区域内の店舗の補助金新設 <p>○補助金改正 (令和6年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独浄化槽撤去費の増額(9万円⇒12万円) ・汲み取り式便槽撤去の新設(9万円) <p><取り組む目的> 汚水処理人口普及率の向上</p> <p><現状分析> 生活環境の急激な変化に伴う、台所・風呂・洗濯などの多量な生活污水が、水路などに流れ込み、悪臭の発生や川を汚す原因となっている。</p> <p><課題> 令和2年10月に公共下水道上野処理区の整備手法を集合処理から合併処理浄化槽に転換したことにより、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への早急な転換が必要である。</p>	<p>補助金申請件数 190基</p> <p><達成された状態> 令和7年度末で汚水処理人口普及率84.8%が達成している</p> <p><手段></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月号の広報誌による周知 ・浄化センター及び清掃3社へ依頼し、汲み取り時に啓発チラシを配布してもらう。 ・ケーブルテレビで周知 ・上下水道部として市民夏のにぎわいフェスタ2025に参加し上下水道事業及び合併処理浄化槽事業を周知 <p>これらの周知の取組みを実施して住民に、水環境の大切さを理解していただき、浄化槽転換及び設置についての啓発を行う。</p>	▶	

◎部局目標4	関連の施策・基本事業No: —	<p>〈これまでの経緯〉 伊賀市水道事業は、平成28年度に策定した「水道事業基本計画(水道ビジョン)」,平成29年度に策定した「水道事業経営戦略」に基づき事業を運営している。 多くの老朽施設、老朽配管を更新、統廃合するための費用検討として令和6年度にアセットマネジメント計画を策定した。</p> <p>〈取り組み目的〉 近年の物価高騰等社会情勢の変化を的確に反映し、アセットマネジメント計画を含めた基本計画及び経営戦略を見直すことで、今後の水道事業について健全で安定した事業運営を継続する。</p> <p>〈現状分析〉 平成28年度策定の「伊賀市水道事業基本計画」では令和13年度まで現状の料金体系で事業運営可能としていたが、人口減少等に伴う水道料金の減収や、想定以上の物価や人件費の高騰等大きな社会経済状況の変化に直面し、安定した事業運営が困難になりつつある。令和6年度策定のアセットマネジメント計画では、現状の料金体系による老朽施設等の更新費用の確保は困難であることが明確となった。</p> <p>〈課題〉 今後の人口減少等を加味した料金収入、耐用年数等に基づく施設の老朽化を踏まえた更新費用。物価上昇等を反映した維持管理費、動力費等の的確な把握。これらを反映した上で収支均衡を維持できる健全経営に向けた経営改革(料金改定、広域化、民間活用・効率化、施設の統廃合)を実現するための「水道事業基本計画」及び「経営戦略」の改定が必要となる。</p>	<p>〈目標〉 健全で安定した事業運営を継続するため、「伊賀市水道事業基本計画」及び「伊賀市水道事業経営戦略」の改定に着手する。令和8年度中の基本計画の改定完了に向け、現状分析及び、経営改革に向けた収支計画の将来予測等をまとめた経営戦略を本年度中に改定する。</p> <p>〈達成された状態〉 計画期間内に支出と収入が均衡するためには、どのような経営改革が必要かをまとめた経営戦略を策定する。</p> <p>〈手段・工程〉 アセットマネジメント計画の結果を踏まえ、新たな知見や新技術の導入、優先順位の低い事業の取りやめ、統廃合の他ダウンサイジング、スペックダウンの検討等必要経費と内部留保額、水道料金の見直し等財源の均衡点を探り収支ギャップの解消を図る。</p>
--------	-----------------	--	---

--	--